

地元購買率は地区によって大きな差

……「上越市の商工業」最新版まとまる

上越市はこのほど、『上越市の商工業』の平成26年度版をまとめ、公表しました。

毎年公表される『上越市の商工業』は「上越市の商工業の姿」として、市が取り組んだ「上越市産業振興施策の実績」の二本立てで構成されています。

このうち「上越市の商工業の姿」については工業統計調査、商業統計調査、経済センサスなどのデータを使ってまとめられています。

上越市の商工業によると、工業も商業も市内事業者数、従業員数とも減少しているほか、工業については製造品出荷額が、商業については年間商品販売額が10%〜20%減少していることが明らかになりました。

左に掲載したものは、新設住宅着工戸数の推移と上越市内における地元購買率の状況です。

新設住宅着工戸数は新潟県、全国が伸び始めている中で上越市は逆に減少してしまいました。この点は分析して対応策を検討する必要があります。

地元購買率というのは、消費者が居住する地区で買い物をする割合をいいます。傾向としては、大型スーパーやショッピングセンターがある地域は高くなっていますが、地区によってはそう言いきれないところもあります。

市では、各地区の商店街などの活性化にむけ、地域商業活性化事業補助金、買い物利便性向上モデル事業などで支援策を講じていますが、「事業結果の分析、

事業の効果・課題の検証から、今後の対策を引き続き検証していく」としています。



【なます】漢字で「膾」と書きます。中国から伝わった料理で、もともとは細切りの生肉・生魚のことを言っていたようです。日本では酢であえた和え物の事を指すようになったとか。写真の紅白膾は正月のおせち料理として欠かせないですね。

新設住宅着工戸数の推移

	上越市	新潟県	全国
平成21年度	1,181	11,850	775,277
平成22年度	1,046	11,306	819,020
平成23年度	1,173	11,369	841,246
平成24年度	1,152	11,490	893,002
平成25年度	1,144	13,576	987,254

上越市内地区別地元購買率の状況

	平成22年	平成25年	増減
合併前上越市	88.5	84.1	-4.4
安塚区	17.2	12.6	-4.6
浦川原区	17.2	18.7	1.5
大島区	2.8	10.3	7.5
牧区	6.6	17.6	11.0
柿崎区	39.4	30.9	-8.5
大潟区	24.1	18.1	-6.0
頸城区	1.4	5.0	3.6
吉川区	9.5	10.9	1.4
中郷区	2.9	2.7	-0.2
板倉区	22.0	13.2	-8.8
清里区	2.1	1.8	-0.3
三和区	3.5	2.2	-1.3
名立区	8.1	5.4	-2.7

今回の調査

地元購買率というものは、消費者

が居住する地区で

入札談合疑惑調査のため情報公開要求

既にお知らせしたとおり、日本共産党議員団では、ガス水道局所管の本支管工事入札談合疑惑解明のため、市民とともに住民監査請求する

ことにしていますが、13日、平良木議員が市長に対して情報公開請求を出しました。

請求では、「ガス水道局が、平成25年12月25日から平成26年1月16日まで行った本支管工事に伴う談合情報に関する関係事業者および関係職員への聴き取り調査の記録」を公開するよう求めています。これは、一連の解明作業の一環です。

市ならびにガス水道局が今後どう対応するか注目です。動きがあれば、なるべく早くみなさんにお知らせします。

氏名 平良木哲也
電話番号 025(525)9096

〔法人その他の団体にあつては、所在地、名称及び代表者の氏名〕

次のとおり情報の公開を請求します。

請求する情報の件名又は内容	(公開してほしい情報の概要を具体的に記入してください。) 1 ガス水道局が、平成25年12月25日から平成26年1月16日まで行った本支管工事に伴う談合情報に関する関係事業者および関係職員への聴き取り調査の記録 2 上記同様、平成26年2月5日及び7日に行った関係事業者への聞き取り調査の記録
公開方法	<input type="checkbox"/> 閲覧 <input checked="" type="checkbox"/> 写しの交付 <input type="checkbox"/> その他()
	<input checked="" type="checkbox"/> 市内に住所を有する個人 <input type="checkbox"/> 市内に事務所又は事業所を有する個人、法人その他の団体(事務所又は事業所の名称(所在地)) <input type="checkbox"/> 市内に存する事務所又は事業所に勤務する個人及び市内に存する



No.1692 2015.1.18
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三四〇回 めんば

ひよっとしたらこの人は国定忠治の生まれ変わりなんじゃなからうか。そう思ったのは牧区でラーメンを食べている時でした。越後の米はうまい、長野から嫁いできた人が多いなどといった話を、俊一さんはそれこそ忠治親分のしゃべり方で続けたのです。

「塩の道だこてねー、人のつながりは……。嫁さん、ここら、みんな長野の人だねかね。みんな白いまんまにあこがれてさ……。まさにまんまだ」

「忠治親分のしゃべり方」と書きましたが、親分の話を聞いたわけではありません。でも、こんな調子だろうなというイメージをずっと前から私は持っていました。人懐こさときつぷの良さがあり、「ついてこい」と言われれば、ついて行きたくなるようなしゃべりです。俊一さんのしゃべりにも同じ要素がありました。俊一さんの話は続きます。

「荷そつてって、宿の家で昼をとらしてもらうわけだ。おかずといったって沢庵か塩辛だ。『めんば』のフタ開けると白いまんまががっちり入っていき。長野んしょとこには白いまんまなんかないすけ、みんなあこがんちゃって。越後へ行けや、朝から白いまんま、食われるんだとやわれりや、そりや、おまん……」

俊一さんは話の中で「めんば」という言葉を繰り返し使いました。白いまんまの入った「めんば」と言うからには、「めんば」は明らかに弁当箱です。どうやら、薄い木の板をまげて作ったものらしい。金井旅館にはたくさんあったものだと思います。私もどこかで一度は見たことがあるような気がしました。でも、「めんば」と呼ぶ弁当箱は初めて耳にしました。

俊一さんの言う「塩の道」というのは柿崎から吉川の大正屋の前を通って、朔日峠（ついたちとうげ）、浦川原、牧、そして長野へと生活物資を運んだ道のことです。いうまでもなく、生活物資の中心は塩です。このほかには魚、塩辛、酒なども運んだようです。この道は夏場だけでなく、冬場も使っていたというから驚きました。雪がたくさん積もるところですから、冬場と言ってもある程度、雪が固まるようになる春に近いころの話だろうと思います。二〇人からの人たちが一列になって荷物を運んでいた姿は力強く見えたにちがいません。

びっくりしたのは、牧峠を通る「塩の道」を通じた長野側と新潟側の交流が思っていた以上に深いものだったことです。俊一さんによると、牧峠を挟んで牧区の上牧と飯山市照岡の双方に炭焼き小屋がいくつもあり、そこが交流の拠点になっていたといえます。ふたたび「親分」に登場してもらいましょう。

「ああ、私も白い飯を腹いっぱい食ってみたい。長野のしょのその思い。越後に嫁に来る。ねえ。うちなんざ全部、長野の嫁さんだ。電話がない時代、どつかのおじいちゃん亡くなったそうだと、どつかのおばあちゃん危ないみたいだなんてね、長野は隣みtainもんだ。国境なんてなかった。うまいことに炭焼き小屋があつてね、そこが情報の中継点になってたもんだ。お互いに山沿いにある。おめ、どうだえ、おら兄もいい年になつて女つ子ほしがつてるようだ。娘、いい子いねかえ。じゃ、行って聞いてみらなつて。次に炭小屋で会ったときに、ああ、あそこがいい子いるわー。その子もはえ、年頃で嫁に行きたがつてるわつて調子だ」

俊一さんとの話は三〇分くらい続きました。「めんば」や米づくりなどの話をして、あらためて米の価値、大切さを考えました。今度、「めんば」に入つたまんまをみんな食べて勉強をする会をやりたくになりました。もちろん、講師は「忠治親分」です。

三和の産廃問題で市が回答

「三和の水とみどりを育てる会」の前山忠事務局長はこのほど、昨年11月に市長に提出していた質問書に市から回答があったとして、その回

答を公開しました。質問書では、①三和区宮崎新田地内の産廃の大部分を占めると思われる「木きず」は今でも「安定品目」とお考えですか。同地の木きずは雨ざらしで腐敗し、悪臭を放っていますが、それでも「安定品目」と言い張るのですか。②同地市有地に放置されている産業廃棄物について、法的には問題ないと今もお考えですか。もし違法でないというなら、その根拠を示してください。（以下略）、③住民の生活上および健康上の不安について、水質検査のみで安全と考えますか。ダイオキシン検査など同地の土壌汚染、汚染水の分析など、総合的に検査する必要性を感じませんか、など7項目について質問していました。

これにたして市は12月17日付けで回答しています。

回答書では、「木くず」につ

いて「安定品目」ではないことを認めたものの、「生活環境保全上支障のおそれがないよう崩落防止の成形を行い、安定品目と共に現地に残されました」としています。また、放置された産廃については、「その後の処理責任は、放置した事業者が負うべきものと考えております」とし、違法かどうかの核心部分については逃げた回答となっています。さらに、総合的な検査の必要性についても、ずばり答えず、「県の代執行により廃棄物が撤去された後に県が行った水質検査や、その後市が引き継いで行っている水質検査でも異常は確認されていませんが、今後も検査を継続していきたい」とのべるとどまっています。写真は昨年11月の「育てる会」の現地調査。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月7日(水)	1月14日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.057	0.047
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.047	0.030
頸南消防署	0.040	0.040
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.050	0.040
名立分遣所	0.050	0.043

春よ来い

第三四〇回 めんば

ひよっとしたらこの人は国定忠治の生まれ変わりなんじゃなかるうか。そう思ったのは牧区でラーメンを食べている時でした。越後の米はうまい、長野から嫁いできた人が多いなどといった話を、俊一さんはそれこそ忠治親分のしゃべり方で続けたのです。

「塩の道だこてねー、人のつながりは……。嫁さん、ここら、みんな長野の人だねか。みんな白いまんまにあこがれてさ……。まさにまんまだ」

「忠治親分のしゃべり方」と書きましたが、親分の話を聞いたわけではありません。でも、こんな調子だろうなというイメージをずっと前から私は持っていました。人懐こさときつぷの良さがあり、「ついてこい」と言われれば、ついて行きたくなるようなしゃべりです。俊一さんのしゃべりにも同じ要素がありました。俊一さんの話は続きます。

「荷そつてって、宿の家で昼をとらしてもらうわけだ。おかずといったって沢庵か塩辛だ。『めんば』のフタ開けると白いまんまががっちり入っていき。長野んしょとこには白いまんまなんかないすけ、みんなあこがんちゃって。越後へ行けや、朝から白いまんま、食われるんだとやわれりや、そりや、おまん……」

俊一さんは話の中で「めんば」という言葉を繰り返し使いました。白いまんまの入った「めんば」と言うからには、「めんば」は明らかに弁当箱です。どうやら、薄い木の板をまげて作ったものらしい。金井旅館にはたくさんあったものだと思います。私もどこかで一度は見たことがあるような気がしました。でも、「めんば」と呼ぶ弁当箱は初めて耳にしました。

俊一さんの言う「塩の道」というのは柿崎から吉川の大正屋の前を通って、朔日峠（ついたちとうげ）、浦川原、牧、そして長野へと生活物資を運んだ道のことです。いうまでもなく、生活物資の中心は塩です。このほかには魚、塩辛、酒なども運んだようです。この道は夏場だけでなく、冬場も使っていたというから驚きました。雪がたくさん積もるところですから、冬場と言ってもある程度、雪が固まるようになる春に近いころの話だろうと思います。二〇人からの人たちが一列になって荷物を運んでいた姿は力強く見えたにちがいません。

びっくりしたのは、牧峠を通る「塩の道」を通じた長野側と新潟側の交流が思った以上に深いものだったことです。俊一さんによると、牧峠を挟んで牧区の上牧と飯山市照岡の双方に炭焼き小屋がいくつもあり、そこが交流の拠点になっていたといえます。ふたたび「親分」に登場してもらいましょう。

「ああ、私も白い飯を腹いっぱい食ってみたい。長野のしょのその思い。越後に嫁に来る。ねえ。うちなんざ全部、長野の嫁さんだ。電話がない時代、どつかのおじいちゃん亡くなったそうだと、どつかのおばあちゃん危ないみたいだなんてね、長野は隣みtainもんだ。国境なんてなかった。うまいことに炭焼き小屋があつてね、そこが情報の中継点になってたもんだ。お互いに山沿いにある。おめ、どうだえ、おら兄もいい年になつて女つ子ほしがつてるようだ。娘、いい子いねかえ。じゃ、行って聞いてみらなつて。次に炭小屋で会ったときに、ああ、あそこがいい子いるわー。その子もはえ、年頃で嫁に行きたがつてるわつて調子だ」

俊一さんとの話は三〇分くらい続きました。「めんば」や米づくりなどの話をして、あらためて米の価値、大切さを考えました。今度、「めんば」に入つたまんまをみんな食べて勉強をする会をやりたくになりました。もちろん、講師は「忠治親分」です。

地区外の人も支えて今年も川谷冬まつり実施

37回目の川谷冬まつりが11日、旧川谷小学校体育館、グラウンドで行われました。参加者は約60人、地域の人だけでなく、法政大学関係者など地域外の大勢の人が祭りを支えてく

れました。

体育館内で行われた交流会は賑やかでした。恒例の3本の杵でついた餅、今回も味は最高でした。餅つきには私も参加させてもらいました。3人の呼吸が合わないとうまくつきませんし、体力も求められます。雑煮は2杯もいただきました。漬物やなますもいい味でしたね。

雪上運動会では、雪積み、宝探しなどを童心に帰って楽しみました。笑いがいっぱいの運動会でしたね。

恒例のサイの神、今回は高齢の源市さんを手伝い、若い人たちが蔓を用意してくれました。冬まつりに参加したのは今回で10回目ですが、点火後、煙が今回ほど空高く上がったのは初めて見ました。ずっと続けたい祭りです。

区内26カ所でサイの神

サイの神行事、今年は吉川区内では26会場で行われました。右下の写真は代石町内会のものです。代石神社から火を松明で運ぶ伝統は今年もしっかりと守られました。酒も十分いただきました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月7日(水)	1月14日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.057	0.047
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.047	0.030
頸南消防署	0.040	0.040
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.050	0.040
名立分遣所	0.050	0.043